

2017年8月

観測ロケット MOMO 初号機
打上げ実験報告書

インターステラテクノロジズ株式会社
代表取締役 稲川貴大

実験結果概要

インターステラテクノロジズ株式会社(以下、当社)は2017年7月30日(日)16時31分、当社で開発した観測ロケット MOMO 初号機の打上げ実験を北海道大樹町のインターステラテクノロジズ社の実験場にて実施しました。実験においては、正常に離昇し66秒間の飛行の後、ロケットからのデータ受信が途絶したために地上からエンジン停止コマンドを送信しました。ロケットは各種状況から緊急時の想定通り、警戒区域内に落下したものと推定しております。

打上げ結果

最高高度(推定) 20km 弱
落下位置(推定) 射点より約4~8km

実験結果詳細

燃焼時間120秒間、最大高度100km超の飛翔実験の予定でしたが、離昇後66秒で通信途絶が起きました。詳細な原因については解析中ですが、機体の不具合によって機体内部電子装置の電源が喪失したと推測されます。MOMOは電源喪失時のような異常時には自動的にエンジン停止機能が働きます。したがって、地上からのエンジン停止コマンドに関わらず離昇後66秒でエンジンは安全に停止されたと考えられます。エンジン停止後、自由落下をして海面に落下、ただちに監視船により落下想定範囲を捜索しましたが、落下物は発見できませんでした。その後、2日後に襟裳岬近辺で漂着した機体の一部が発見されましたが、機体の大部分は海面落下後すぐに沈下したものと考えております。

実験に際しましては、地元十勝の多くの方々だけではなく、北海道全体、ひいては日本中の多くの方の支援を受けました。心より御礼申し上げます。引き続き、日本の民間宇宙開発をリードできるよう邁進してまいります。